

昔、自分たちの習った筆順と今の筆順と違うものがあるが、今の筆順でないとい誤りになるのか。

筆順とは、そう書いたほうがよい、という性質のものであって、そう書かなければならないというものではありません。“運筆が自然で、書きやすい順序”と言っても、文字によっては、いく通りも考えられます。だから、筆順は、ただ一つだけが正しい、というようには言えないものです。









ところが、昭和33年3月31日に、文部省から「筆順指導の手びき」が公布されますと、それには、教育漢字の一字一字について、ただ一つの筆順しか示されていませんので、それと異なる筆順は、すべて誤りだと思い込んでいる先生が意外に多いようです。





この手びきの初めに、「本書のねらい」があって、それに、

「もちろん、本書に示される筆順は、学習指導上に混乱をきたさないようにとの配慮から定められたものであって、そのことは、ここに取りあげなかった筆順についても、これを誤りとするものでもなく、また否定しようとするものでもない。」

と書かれていて、これ以外を書いては誤りである、というものではないことがことわられているのです。

ところが、多くの先生方は、この大切な「まえがき」を読まないで、指導に当たるものですから、この手びき以外の筆順は誤りだと思い込み、子供たちを不当に苦しめているようです。

アルファベットでも、Aは、ていねいに書く時は、「、、」と書きますが速く書く時は「、」と書きます。Dは、ていねいに書く時は「、」と書きますが、速く書く時は「」と一筆に書きます。

それと同じように、「右」は、ていねいに書く時は「一、ノ、口」と書くのが自然で、速く書く時は、「、口」と書くのです。「田」は、ていねいに書く時は、「、一、ノ、一」と書くのが自然で、速く書く時は「、」と書くのです。「手びき」では、速く書く時の筆順が示されていますが、それはそのほうが後のために良いと考えだからでしょう。しかし、正しい指導としては、むしろ、ていねいに書く場合と速く書く場合と、分けて指導すべきだと思います。

「必」の筆順など、書家は美しく書くため伝統ある筆順に従って書いていますが、漢字の先生は、普通「心、ノ」というように書いています。

漢字字典の大家でいらっしゃる原田種成先生も、普通は、「心、ノ」と書いている、とおっしゃっています。普通はそれでよいのです。

一般に、書家は、筆順をやかましく言います。それは、芸術的に美を求める以上、当然のことだと思います。筆順などどうでもよい、というようなことでは、“書”は書けません。

しかし、実用的な書は、一般に、そのような厳格さを要求すべきではないと思います。目的が全く異なっているからです。読めて、意味さえ誤りなくくみ取れるなら、どう書いたってよい道理です。

結局、次のようになるかと思います。「教える場合には正しい筆順を教えるべきであり、指導者は常にその筆順で書くように努めなければならぬ。しかし、子供にはそれを強制してはいけない。」